

書く力を高める指導の工夫
～学び合いを通した主体的な Writing 活動～

1. 設定理由

2008 年に小学校に外国語活動が導入され、特に音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることとなった。現行学習指導要領では、中学校段階では「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」を明示することで、小学校で育まれた素地の上にこれらの 4 つの技能を総合的に育成することとしてきたが、3 月に公示された新学習指導要領では、小学校でも高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を指導内容に加えることとなった。

本研究校（3 校）においては、小学校で A L T とのコミュニケーション活動を中心に外国語に親しんできた生徒たちは、英語授業に楽しさを感じているものの、「読むこと」「書くこと」における文字言語としての英語について苦手と感じていたり、抵抗感をもっていたりする生徒が多いことがアンケート結果からわかった。過去の生徒の実態としても「書くこと」に難しさを感じる生徒が多く、個人の学力にも大きく差が生じる傾向があり、これを改善するためにはどのように Writing 指導にとりくんだら良いかを考えた。

生徒は小学校段階からペアやグループでのコミュニケーション活動に親しんでおり、授業のなかで楽しみな活動として捉えている。また、言語習得のためには人と人との関わり、つまり、対話や相互作用が有効であることから、Writing 活動をグループでとりくむことにより、「教え合い」・「学び合い」のできる Writing 活動に発展することはできないかと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

Writing 活動にグループでの学び合い活動を取り入れ、多様な表現を共有することで、書く力が高まるであろう。

3. 研究内容

- (1) 書く力を養うための指導の工夫
- (2) 学び合いを通した Writing 活動の工夫

4. 結論

- (1) 継続的に Writing 活動を行うことで、生徒の書く英文の語数が増加したり、くり返し使う単語のスペルミスが少なくなるなどの変化が見られた。
- (2) グループでの学び合い活動を行うことで、生徒の「書くこと」に対する抵抗感が減少した。

山武支部
東金市立北中学校

渡部 里美

山武市立山武中学校

土屋 薫

1. 研究主題

書く力を高める指導の工夫 ～学び合いを通した主体的な Writing 活動～

2. 設定理由

2008 年に小学校に外国語活動が導入され、特に音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることとなった。現行学習指導要領では、中学校段階では「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」を明示することで、小学校で育まれた素地の上にこれらの4つの技能を総合的に育成することとしてきたが、3月に公示された新学習指導要領では、小学校でも高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を指導内容に加えることとなった。中学校でも、日常的な話題・社会的な話題に関するコミュニケーションにおいて、生徒が自分の考えや気持ちを表す表現をより豊かにするために、「書くこと」においては簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動が新たに加えられる。

また、2012年に国立教育政策研究所が行った「書くこと」に関する調査の結果から、同研究所は今後の指導の改善事項について、「実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を通して定着を図るようにすること」と「生徒が思考・判断する場面を活動の中に取り入れるようにすること」の視点を意識しながら「書くこと」の指導を改善していくことが必要だとしている。

本研究校（2校）においては、小学校でALTとのコミュニケーション活動を中心に外国語に親しんできた生徒たちは、英語授業に楽しさを感じているものの、「書くこと」における文字言語としての英語について苦手と感じていたり、抵抗感をもっていたりする生徒が多いことがアンケート結果（資料1）からわかった。「英作文は書けないから苦手。」という意見が多く、その背景には、語彙が習得されていない、基本的な文法や語順が理解できていない、まとまりのある複数の文を書くことに慣れていない等、様々なレベルの要因があると考えられる。これまでの「書くこと」の指導は、単語や基本文の書き取り、繰り返し練習して覚える活動が多くなりがちで、語彙や英文構造の定着が十分には図られなかった。また、授業の中でコミュニケーションを目的として書くという経験も不足していたと考える。こうした状況を改善するためには、まず、基本的な語彙や文法・語順等の基本的英文構造の知識といった、コミュニケーションを支える基礎的能力を培う指導を継続的に行うだけでなく、実際にコミュニケーションを図る活動と連動させて指導することが重要であると考えた。過去の生徒の実態としても「書くこと」に難しさや抵抗感を感じる生徒が多く、個人の学力に大きく差が生じる傾向があり、これを改善するためにはどのように Writing 指導にとりくんだら良いかを考えた。

生徒は小学校段階からペアやグループでのコミュニケーション活動に親しんでおり、授業のなかで楽しい活動として捉えている。また、言語習得のためには人と人との関わり、つまり、対話や相互作用が有効であることから、Writing 活動をグループでとりくむことにより、「教え合い」・「学び合い」のできる Writing 活動に発展することはできないかと考え、本

主題を設定した。

3. 研究仮説

Writing 活動にグループでの学び合い活動を取り入れ、多様な表現を共有することで、書く力が高まるであろう。

4. 研究内容

(1) 書く力を養うための指導の工夫

新学習指導要領では、小学校高学年から発達段階に応じて、段階的に、「読むこと」「書くこと」が指導内容に加わる。中学校では、日常的な話題・社会的な話題に関するコミュニケーションにおいて、生徒が自分の考えや気持ちを表す表現をより豊かにすることが求められる。そのため、単語を正確に書くことから始め、語順に注意し、まとまりのある文章を書くための、段階的な指導を工夫する必要があると考えた。

① 語彙、語順指導

英作文の指導を継続的に行うに当たって、英単語の語彙を増やす指導や、英語の語順を指導する必要があると考えた。

ア 英単語ビンゴと5問テスト(実践校 A 資料3①)

帯活動で1年生の2学期から、英単語でビンゴ活動をし、その単語を毎時間5問ずつテストする活動を行った。1時間目に英単語が25個で書いてある用紙で、ビンゴゲームをしながら発音や意味を確認し、その後の5時間でビンゴの横の列に書いてある5問ずつテストを行った。テスト用紙は、毎回1枚ずつ新しい用紙を配るのではなく、20回までまとめて記入できる用紙を作成した。英語が苦手な生徒も、少し練習すれば満点が取れるため、一生懸命とりくむ生徒が多かった。満点が取れて喜ぶ生徒や、毎回5点満点をキープする生徒も多く見られた。

イ ディクテーション(実践校 B 資料3②)

新出単語の学習後、本文の訳読に入る前に本文のディクテーション活動を継続して行った。最初は本文の穴埋めという形で行っていたが、教科書の内容が少しずつ難しくなってきたことで、生徒の正答率が下がってしまった。そのため、解答に使用する単語をあらかじめ選択肢として与え、生徒が答えやすいように工夫した。そのことで、それまで解答欄を埋められなかった生徒は空欄を埋めるようになった。その後、ディクテーションとして扱う内容を教科書の本文から、教科書のリスニング内容に変え、選択肢をなくして実施した。選択肢を用いた活動で聞き取りに自信がついたことや、ディクテーションをする文章が短い会話文になったことで、積極的に穴埋めをし、ほぼ全員の生徒が文を正しく完成させることができた。

ウ 単語を並び替える活動(実践校 A、B)

英語の語順に慣れるため、単語カードを並び替え、文を作る活動を行った。A校で

は、品詞ごとに色分けした単語カードを1人1セット作った。黒板には、「だれが」「する」「何を」「どこ」「いつ」などのカードを英語の語順で貼り、語順のヒントになるようにし、教員が言った日本語の文と同じ意味になる様に、単語カードを並べさせる活動を行った。最初は一般動詞の文に be 動詞を入れてしまう生徒もいたが、徐々にその間違いは減少していった。

B校では、2～3人のグループに、15の目標文を単語ごとに切った紙を渡し、与えられた日本語の意味になる様に並び替えさせる活動を行った。最初は日本語の文をもとに、正解の英文で使われそうな英単語を全ての単語の中から選んでいる生徒が多かったが、回数を重ねていくうちに、品詞で分類するグループや、英文を頭の中で考えてから並び替えるグループが出てきた。判断が難しい前置詞や冠詞が最後に余ってしまう傾向があったが、グループで話し合いを行い、正解に結び付けられるようになった。

エ 副教材の選定（実践校 A、B）

1学期に副教材を選ぶ際、語順や使用場面に重点を置いて作成された副教材を使用することに決定した。新出事項の確認や、日本語を英語にする問題には、必ず横にその場面のイラストが描かれており、生徒がその英語が話される場面を想像しやすくなっている。また、英作文を書く問題では、「SNS に投稿する」「メールを書く」「パンフレットの見出しをつくる」などの、生徒に身近な場面が設定されており、生徒が意欲的に書けるよう工夫されている。日本語を英語にする問題では、絵だけでなく、日本語で語順のヒントも書かれている。そのため、自主学習がしやすく、生徒には好評である。

②英作文の指導

継続的に Writing 指導を行っていくため、1年次に Writing notebook を用意し、生徒が自分の作品を見返せるようにした。また、教員が用意したプリントや資料を貼り、蓄積させるようにした。

現2年生が1年生の時から、学期に1～3回英作文を書かせる指導を行った。1年生の2学期までは、例を示し、自分の紹介文や身の回りの人の紹介文を書かせた。（英作文の課題一覧 資料2）

教員は、生徒どうしのチェック活動の妨げになるため、生徒の英文に間違いを見つけても指摘はせず、文法的なアドバイスは極力控え、生徒から情報を引き出すための、内容のアドバイスだけに留めるようにした。例があるため、大きな間違いは見られなかったが、a や the の冠詞を落とす間違いや、複数形の s が抜けるなどの間違いが多くみられた。

生徒どうしの間違い直しの後、教員がチェックし、間違いが多かったミスで、「がちミスメイク」とし、生徒に間違いを探させた。

また、2年生になってから、間違いを探して直すテスト（資料4）を3回行った。テストの時期と平均点は以下の通りである。

(15点満点)	A 校	B 校
1回目 4月	8.0	9.9
2回目 5月	10.2	10.1
3回目 6月	9.2	9.6
4回目 7月	10.7	11.2

間違い直しのテストは、1回目と2回目、3回目と4回目は同じ問題を出題した。そのため、1回目、3回目より2回目、4回目の平均点が上がっている。このことから、継続的に間違いを直す活動や、直される経験をすることで、英文が正確かどうか判断する能力が向上したと思われる。

(2) 学び合いを通した Writing 活動の工夫

①グループ作りの工夫

A 校では、グループで活動するに当たって、3人、4人、5人グループで活動をさせ、英語が得意な生徒をリーダーとして配置した。5人グループでは、個々の活動に焦点が当たり、グループの中で話し合いながら間違いを探す様子は見られなかった。4人グループでは、意見が活発に出ており、1人のノートをみんなでチェックする姿がみられた。3人グループも、4人グループと同じ位に活発な様子が見られたが、多くのリーダーが必要になるため、学級の状況によっては、3人グループでの活動が困難であることも考えられる。

B 校でも同じように生活班を利用し、3～5人のグループで活動をさせたが、意図的にリーダーは置かなかった。班で各々の英作文を見せ合い、班員で協力して文章を正しく直すことを指示した。英語が得意な生徒がいる班のチェック活動では、全員でチェック活動をした後、その生徒に最後の確認を依頼し、文章を完成させていた。また、なかなか文章が書けない生徒は、英語が得意な生徒の作文を参考にする姿が見られた。英語が得意な生徒がいない班では、お互いの英作文の見比べることで相違点を見つけ出し、どちら正解なのか話し合う姿が見られた。

また、A 校 B 校ともに、ペアで間違い探しをした時には、全ての間違いを見つけられたペアはごくわずかであった。活動が停滞をしているペアがあったことから、4人でのグループ活動に切り替えたところ、ほとんどのグループがペアの時よりも多くの間違いを見つけることができた。

このことから、4人グループでの活動が適していると考えた。

②生徒どうしのチェック活動

3～5人のグループを作り、お互いに writing ノートを交換し、赤ペンで直す活動を行った。最初は友だちのミスを指摘し、直すことにためらう生徒もいたが、回を重ねるごとに慣れ、積極的に参加できる生徒が増えてきた。

始めはノートを交換し、黙々とミスを探していたが、グループの全員で1人のノートを見て、意見を出し合うグループも出てきた。また、ミスを指摘された生徒からは、悔しいという声が聞かれるようになり、ミスを見つけた生徒も、うれしそうな表情を見せるようになってきた。

A校では生徒どうしのチェック活動中には、特に助言は行わなかったが、B校ではグループの全てのミスが見つけれられるまで探し直させた。その際、ミスが見つけれられるように、ヒントを与えるようにした。例えば、「I like cat.」「I eat apple.」のように、目的語を複数形にできなかった生徒には、数を尋ねることを続け、生徒が複数形に気づけるようにした。その結果、生徒どうしで教員に受けたヒントと同じような発問を繰り返し、チェックを行えるようになった。また、それに付随して、aとanの使い分けに気付く生徒も出てきた。

英語の学習が進んでいくと、生徒が文章の中の動詞に注目するようになっていった。

「I from Chiba.」という文を見て、動詞がないこと指摘できる生徒が出てきたり、「I am like math.」の間違いに気付く生徒が出てきたりするようになった。

3人称単数の学習を終えると、生徒は動詞の形と主語に注目するようになり、「He play soccer.」や「They likes tennis.」の間違いに気付くことができるようになった。

2年生になり過去形を学習すると、生徒は動詞の形に加え、時を表す言葉に注目するようになった。活動を通して、「two last months ago」と書いた生徒は「last」と「ago」の誤りをしなくなった。

これらのことから、生徒どうしのチェック活動を行うことで、生徒の文法の理解が深まったと考えられる。

③教員のチェック

生徒どうしのチェック活動の後、教員が必ず英作文を確認した。1年次ではどの学校でも単純なミスが多く見られたが、チェック活動を重ねていき、「ありがちミスティク」を共有していくことで、単純なミスが少しずつ減っていった。

My brother likes chicken.

My brother ~~(don't like)~~ book. > doesn't like

My mother likes dogs.

My uncle plays basketball.

→

This is

She is from Chiba.

She plays basketball.

She likes Takoyaki.

She is 13 years old.

She can play piano the

しかし、2年生になって表現が広がった分、前述の内容に対する代名詞や冠詞の間違いが増えてきた。1年次は人物に関する情報を、羅列すればよかったが、休日にしたこと、という課題で英作文を書くときに、したことをただ書くのではなく、入試の英作文を意識し、まとまりのある内容にするように指導したため、間違いが増えることになった。

I went to Otaki by car during "Golden Week".
I saw ^a mountain and rivers.
I was very beautiful. I took a lot of pictures there.
They were.
I enjoyed my days in Otaki.

また、学習した表現が増え、生徒の表現したいという意欲が高まってくると、文法的な間違いだけでなく、文章構成に関する指導も必要であると感じるようになった。

例えば、「I am a student.」「I am from Chiba.」「I live in Togane.」などの、基本的な情報よりも、「I like cats.」「I play soccer.」などの付加的な情報が先にきてしまう生徒がおり、基本的な情報を先に書くという指導を行った。

また、生徒どうしでは、文にまとまりがあるかないかという判断は難しく、指摘することは難しかった。多くの生徒は、「I climbed a mountain. It was cold. I was tired.」のような文になってしまっており、文法的な間違いはないため、生徒のチェックは入らなかった。このような文を、「I went to Gunma. I climbed a mountain. It was very high. I climbed for about five hours. I got very tired.」のような文に直させた。その時どう思ったのか、どのくらい時間がかかったのか、など日本語で聞きながら、まとまりのある文を書けるように助言をしていった。さらに、表現力を伸ばすために、接続詞の指導を行った。生徒は構成や接続詞を意識して文章を書くようになったが、接続詞の使い方につまずきが見られたため、継続した指導が必要である。

教員がチェックをすることにより、生徒どうしのチェックでは気付かない間違いや文章構成に目を向けることができた。活動開始当時は教員にチェックをされることが当然と捉えていた生徒たちも、活動を繰り返し行うことで生徒どうしのチェック活動で全ての間違いを見つけようとするようになった。

5 成果と課題

(1) 成果

1冊のノートを使い、継続的に指導をしていくことで、生徒は自分が書いた英作文を振り返ることができ、自分の成長を確認することができた。過去の間違いを振り返る事で、自分の間違いやすいポイントを再確認し、正確に英文を書くことができた生徒が多くいた。生徒が自分の過去の作品を見たときに、「こんな間違いしてたんだ、恥ずかしい。」「今はこんなスペルミスはしない。」などの発言が聞かれるようになった。

また、グループでの学び合い活動を通し、友人の作品を目にして、様々な表現を共有することができた。このことから、自分の作文に友人から学んだ表現を取り入れ、1文あたりの語数を増やすことができた生徒が多い。

友だちと話し合いながら文法の間違いを探したり、感想を書いたりすることで、英作文を書くことや、グループでのチェック活動を楽しみにする生徒も増えてきた。1年次には、英作文の課題に対して、「書くことがない。」「作文はいやだ。」「無理。」などと言う生徒がいたが、回を重ねるごとに、「〇〇について書こうかな。」「今日のことを日記に書こうかな。」などと意欲的な発言をする生徒が増えてきている。このことと意識調査の結果から、生徒の「書くこと」に対する抵抗感が1年次よりも減ったと言えるであろう。

(2) 課題

研究開始時は、チェック活動を重ねていけば、生徒の間違いが減るだろうと予想していたが、新しい文構造を学習した直後は間違いが増える傾向にあった。また、表現する内容や量が増えたことで起こる間違いも多くあった。そのため、生徒の変容がつかみにくく、成果を数値としては捉えにくかった。

これまでの活動で、文法的な間違いや英作文への抵抗感は減ってきたが、構成を考えてまとまりのある英文を書くことについては課題が残った。まとまりのある文を書くことについては、継続して支援していきたい。

資料編

資料1 生徒の英語学習に関する意識調査

資料2 英作文の課題一覧

資料3 語彙・語順指導 ワークシート

① 英単語ビンゴ用紙 テスト用紙

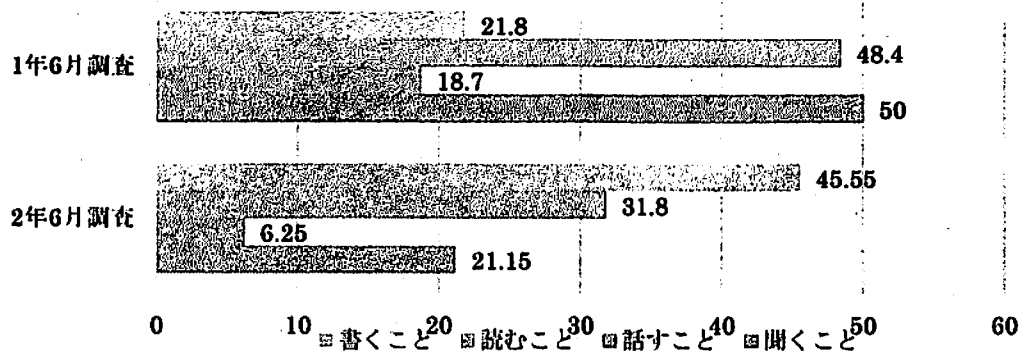
② ディクテーションを含むワークシート

資料4 間違い直しテスト

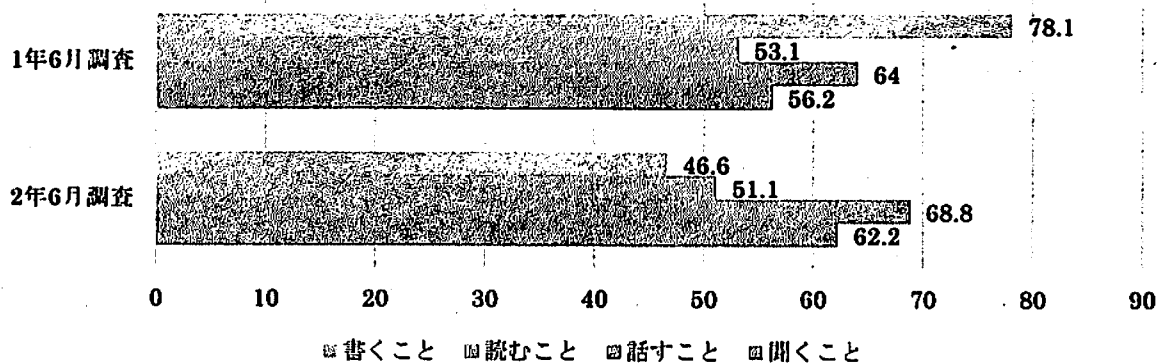
資料5 生徒の英作文（接続詞指導前、指導後）

資料1 生徒の英語学習に関する意識調査

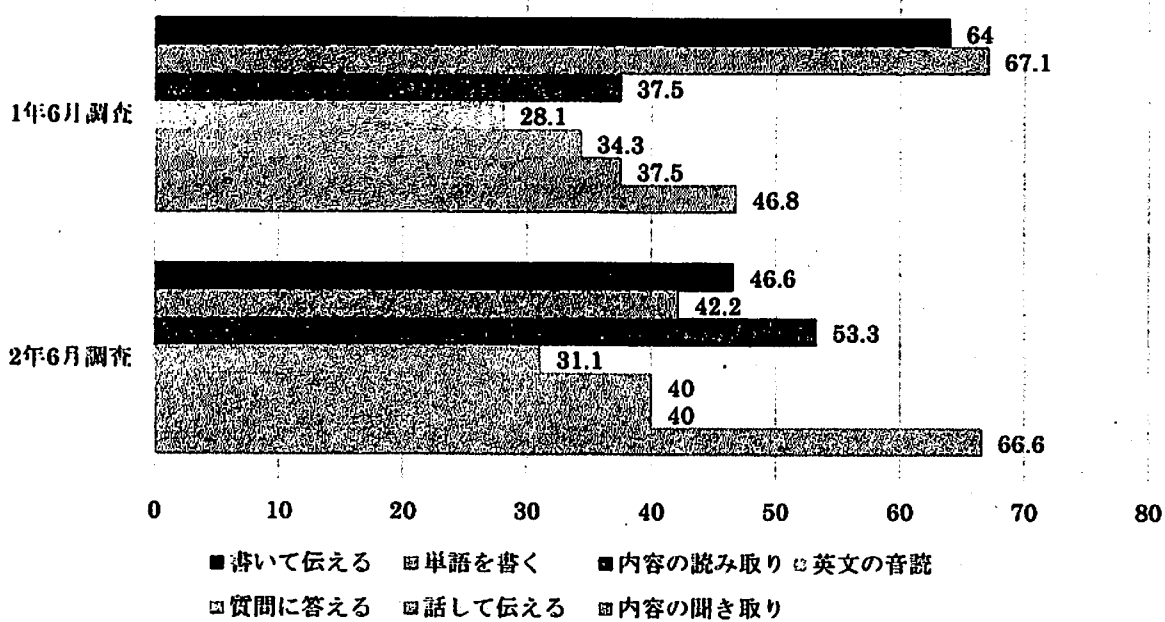
Q1.英語学習で得意とする技能はなんですか。(複数回答可)



Q2.英語学習で苦手とする技能はなんですか。(複数回答可)



Q3.英語学習で難しいと感じていること(複数回答可)



資料2 英作文の課題一覧

英作文の課題一覧	
1 年	・ 自己紹介 (A、B)
	・ 身の周りの人の紹介 (A)
	・ 好きなキャラクターの紹介 (A、B)
	・ 課題で与えられた人物の紹介 (A)
	・ 身の周りの人の紹介 (can を用いて) (A)
	・ 与えられた動詞を使って、過去の文を書く (A、B)
2 年	・ 春休みの日記 (B)
	・ 連休の思い出 (A、B)
	・ 妄想英作文 (A)
	・ 自然体験教室 (A、B)

資料3 語彙・語順指導 ワークシート

①英単語ビンゴと5問テスト

英単語ビンゴ

class

number

name

point

B					
I					
N					
G					
O					

B: day / week / year / Sunday / Monday

I: Tuesday / Wednesday / Thursday / Friday / Saturday

N: sunny / cloudy / rainy / morning / afternoon

G: evening / night / breakfast / lunch / dinner

O: often / usually / sometimes / really / together



単語テスト用紙 1年 組 番 名前

	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	score	check
1						/5	
2						/5	
3						/5	
4						/5	
5						/5	
6						/5	
7						/5	
8						/5	
9						/5	
10						/5	
11						/5	
12						/5	
13						/5	
14						/5	
15						/5	
16						/5	
17						/5	
18						/5	
19						/5	
20						/5	

目指せ！毎回満点！

②ディクテーション

Program4-3

Date: _____

Class 1- No. Name: _____

New Words

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| (1) many _____ | (2) camera(s) _____ |
| (3) ball(s) _____ | (4) potato(es) _____ |
| (5) want _____ | (6) please _____ |
| (7) How many?? _____ | (8) Music box(es) _____ |
| (9) some _____ | (10) lot _____ |
| (11) of _____ | (12) today _____ |
| (13) send _____ | (14) save _____ |
| (15) kid(s) _____ | (16) a lot of ~ _____ |
| (17) NPO _____ | (18) wow _____ |

Word box

- | | |
|----------------------|--------------------|
| (1) carrot(s) _____ | (2) onion(s) _____ |
| (3) tomato(es) _____ | (4) apple(s) _____ |
| (6) banana(s) _____ | |

Listening

- (1) Mike has some bottle caps. [T / F]
- (2) Takeshi has about 500 bottle caps. [T / F]
- (3) Yuki and Takeshi send the caps to an NPO. [T / F]

Program6-1

Date: _____

Class 1- No. Name: _____

New Words

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| (1) cooking _____ | (2) song _____ |
| (3) color _____ | (4) light _____ |
| (5) blue _____ | (6) wonderful _____ |
| (7) interesting _____ | (8) place _____ |
| (9) always _____ | (10) talk _____ |
| (11) by _____ | (12) tube _____ |
| (13) a lot _____ | (14) by tube _____ |
| (15) London _____ | (16) Judy _____ |
| (17) Sherlock Holmes _____ | (18) Baker Street _____ |

Word box

- | | |
|----------------------|------------------|
| (1) white _____ | (2) pink _____ |
| (3) black _____ | (4) yellow _____ |
| (6) dark brown _____ | |

Listening

- (1) London is ().
- (a) a beautiful city (b) a wonderful city (c) an interesting city
- (2) () is a Sherlock Holmes fan.
- (a) Yuki (b) Judy (c) Takeshi (d) Matt
- (3) Matt says "Let's go to Baker Street ()."
- (a) on foot (b) by train (c) by tube (d) by car

Dictation

- Mike: I have () bottles ().
- Oh, you have a () of bottle caps.
- Yuki: () () bottle caps do you ()?
- Takeshi: I have () () today.
- Yuki: We () the caps to an NPO.
- Mike: Wow! You () a lot of ().

Grammar Practice

日本語の意味に合うように () 内の語を並べ替えなさい。

- (1) あなたは何匹猫を飼っていますか。 (cats / have / many / you / do / how / ?)

3匹飼っています。 (have / cats / 1 / three / .)

- (2) あなたは何枚CDを持っていますか。 (CDs / you / many / have / how / you / ?)

12枚持っています。 (twelve / have / CDs / 1 / .)

- (3) あなたは何部屋掃除するのですか。 (you / many / do / clean / how / rooms / ?)

2部屋掃除します。 (clean / two / 1 / rooms / .)

- (4) あなたは何冊本を読むのですか。 (read / how / you / do / books / many / ?)

5冊読みます。 (read / books / 1 / five / .)

- (5) あなたは何曲歌いますか。 (sing / songs / how / do / many / you / ?)

8曲歌います。 (songs / eight / sing / 1 / .)

Dictation

- Yuki: London is a () city.
- Judy: Thank you. We have a lot of () places.
- Look! () Matt.
- Yuki: Hi, Matt. Judy () talks () you.
- Judy: Matt is a Sherlock Holmes ().
- () knows a lot about Sherlock Holmes.
- Matt: () go to Baker Street () tube.

重要 always about wonderful he by let's fan interesting that's

中身の「キ」 次の語彙に3人単語を単語 (3単語) をあわせて「a」「e」「s」をつけないで。

- | | | |
|-----------------|-----------------|------------------|
| (1) know _____ | (2) play: _____ | (3) talk: _____ |
| (4) like: _____ | (5) go: _____ | (6) study: _____ |

Program5-3 の答え

- 1 (1) brother (2) he (3) teacher (4) sister (5) she (6) boy (7) friend (8) cousin
(9) classmate (10) player (11) picture (12) family (13) father (14) mother
(15) programmer (16) now (17) movie (18) star (19) cool (20) Indian
- 2 (1) 彼は私の兄です。 (He) is my (brother).
(2) 彼女はキヨコです。 (She) (is) Kyoto.
(3) 彼は野球ファンですか。 (Is) (he) a baseball fan?
(4) はい、そうです。 (Yes), (he) (is).
(5) 彼女は私のいとこではありません。 (She) (is) (not) my (cousin).
- 3 (1) 家族の写真 (2) コンピュータープログラマー (3) Is she a student? (4) インドの映画スター

生徒A

I made curry in the evening.
It was delicious.
After that, we made a camp fire.
It was really fun.
Next day, It was raining.
So, we went to the Omurasaki center.
I saw many bugs there.

自分で構成を考えてみよう。

I went to Yamanashi from May 24th to May 26th
I made curry and ate it on May 24th.
After that, we made a camp fire.
Next day, it was rainy so we went to the Omurasaki
center.
I saw many bugs there. I had a good time in Yamanashi

暗書しよう

I went to Yamanashi from May 24th to May 26th
I made curry and ate it on May 24th.
After that, we made a camp fire.
Next day, it was rainy so we went to the Omurasaki
center.
I saw many bugs there. I had a good time in Yamanashi

I saw Oomurasaki. It was beautiful.
 I ^{saw} ~~made~~ a camp fire. It was nice.
 I ^{took} ~~take~~ a fancy to ~~hike~~ hiking.
 I stayed ⁱⁿ ~~with~~ a bungalow in Yamanashi.
 It was very fun.
 I went to Seisen-ryo.
 I ~~It~~ was very happy!

自分で構成を考えてみよう。

I went to Yamanashi on May ~~24, 25, 26th~~
 I saw a camp fire there. ^{24th, 25th, 26th}
 It was very beautiful and nice?
 After that, I took ~~a~~ pictures with my friends.
 I had a good time.

消書しよう

I went to Yamanashi on May 24th, 25th and 26th.
 I saw a camp fire there.
 It was very beautiful and nice.
 After that, I took pictures with my friends.
 I had a good time.

生徒 C

接続詞指導前 下書き

I went to Gunma.

I stayed in a camp village.

We cooked curry and rais.

It was very good.
rise.

We had a very good time.

接続詞指導後 下書き

I went to Gunma.

I stayed in a camp village.

We cooked curry and rice.
rice

It was very good, but I was very tired.

We had a very good time, because I was very
tummy.

生徒 D

接続詞指導前 下書き

I went to Gunma with culssmates.

my classmates

I climbed mountain.

a mountain

It was very high.

~~X~~ I rode gondola.

I was very tired.

(I had a very good time.

接続詞指導後 下書き

I went to Gunma with my classmate.

くっつける

I climbed a mountain and for a long time.

いすた

It was very high and cold.

I was very tired because very high.

It was

I enjoyed very much.